

令和6年度第2回川崎市上下水道事業経営審議委員会 会議録

【開催日時】

令和6年11月25日（月）15:00～16:52

【開催場所】

川崎市役所第3庁舎18階大会議室

※オンライン（Zoom）併用開催

【議題】

川崎市上下水道事業中期計画（2022～2025）の進捗管理について

【その他】

水道料金制度及び下水道使用料制度のあり方に関する検討について

【出席者】

（1）委員会委員（敬省略）※オンライン出席者

磯貝和敏、井出多加子※、鎌田素之、齋藤利晃、長岡裕、中野英夫※、西川雅史※、石山一可※、島田典子、
舘克則、伊藤真冬、山下美穂

（2）上下水道局職員

上下水道事業管理者、担当理事・下水道部長、経営戦略・危機管理室長、総務部長、総務部担当部長（財務）、サービス推進部長、水道部長、水管理センター所長、下水道部担当部長（施設）、経営戦略・危機管理室担当課長〔経営戦略・企画調整〕、庶務課長、財務課長、財務課担当課長〔下水道財務・財務会計システム〕、サービス推進課長、水道計画課長、下水道計画課長

【傍聴者】

4人

【議事内容】

次のとおり

事務局 定刻となりましたので、令和6年度第2回川崎市上下水道事業経営審議委員会を始めさせていただきます。私は、事務局を務めさせていただきます、経営戦略・危機管理室の山梨と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議につきましては、オンラインと併せての開催となっており、井出委員、中野委員、西川委員、石山委員におかれましては、オンラインで御出席いただいております。中野委員は当初対面での出席予定でしたが、急用により、オンラインでの御出席となりました。席次表では対面のまとなっておりますが、御了承ください。

なお、本日の会議でございますが、「川崎市審議会等の会議の公開に関する条例」第3

条の規定に基づき、公開とさせていただきますので御了承願います。

また、会議終了後、議事録を作成いたしますが、こちらも原則公開となっておりますので、事務局で作成後、各委員に内容を確認していただいたのち、確定させてまいりたいと考えております。

なお、本日は傍聴の申し出がございますので、傍聴人の入室を認めてよろしいでしょうか。それでは、傍聴人の方に入室していただきます。

オンラインで御出席の皆さま、音声は聞こえておりますでしょうか。オンラインで御出席の皆さまの資料につきましては、御説明の際に画面共有をさせていただきます。事前に電子ファイルでお送りした資料につきましても、必要に応じて御確認いただければと存じます。

また、ネットワークへの負荷低減のため、事務局からの御説明の時間などにつきましては、ビデオを停止し、マイクをミュートにさせていただきますよう、お願いいたします。

なお、御発言の際は、ビデオを開始し、挙手いただくか、挙手ボタンを押していただきますよう、お願いいたします。委員長から指名いたしますので、御発言をお願いいたします。

続きまして、会場にいらっしゃる委員の皆様の資料でございますが、今回はあいにくタブレットの使用ができませんでしたので、お手元のパソコンに資料を格納しております。申し訳ありませんが、各自で資料ファイルの閲覧をお願いしたいと存じます。

なお、操作方法等について御不明な点等ございましたら、随時、お近くの事務局職員にお声掛けくださいますようお願いいたします。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

はじめに、大澤上下水道事業管理者からご挨拶を申し上げます。

事業管理者

上下水道事業管理者の大澤でございます。

委員の皆様におかれましては、本日は大変お忙しい中、御出席いただきまして誠にありがとうございます。

この経営審議委員会につきましては、委員の任期が2年となっております、本日は新しい任期になって初めての開催でございます。

今回、新たに委員をお引き受けいただきましたことに改めてお礼申し上げます。今後、上下水道局の事業全般について、御審議いただくこととなりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

また、引き続き委員に御就任いただきました皆さまにおかれましては、これまで工業用水道事業の施設更新及び料金制度のあり方について検討していただきましたが、この度、新しい料金制度を施行するため、令和6年第3回川崎市議会定例会において、関係条例の一部改正が議決されましたので、改めて、お礼申し上げます。

さて、本日の議題でございますが、現在の中期計画の進捗管理として、令和5年度の実施結果及び計画期間の折り返し地点となるため、中間評価結果についてご説明いたします。また、その他として、令和6年5月に本委員会へ諮問した、水道料金制度及び下水道使用料のあり方に関する検討状況についても、御報告いたしますので、十分に御審議をいただきまして、率直な御意見を賜りたいと考えております。

開催にあたりまして、簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきます。本

日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局 続きまして、経営審議委員会委員の任期は要綱により、2年となっております。本日は選任後、初めての会議でございますので、経営審議委員会委員を御紹介させていただきます。オンラインで御出席の皆様におかれましては、画面をオンにさせていただきますよう、お願いいたします。それでは、「川崎市上下水道事業経営審議委員会委員名簿」をご覧ください。

経営審議委員会の委員は、要綱により、学識経験者、各団体の代表者、市民公募の方に委嘱することになっておりまして、名簿は区分ごとに50音順に作成しております。名簿順に紹介をさせていただきますので、名前を呼ばれた方は、恐れ入りますが、お立ちいただき、その場で目礼いただければと存じます。

まず、学識経験者でございますが、

公認会計士の「磯貝和敏（イソガイ カズトシ）様」でございます。

成蹊大学名誉教授の「井出多加子（イデ タカコ）様」でございます。井出様はオンラインで御出席でございます。

関東学院大学准教授の「鎌田素之（カマタ モトユキ）様」でございます。

日本大学教授の「齋藤利晃（サイトウ トシアキ）様」でございます。

東京都市大学教授の「長岡裕（ナガオカ ヒロシ）様」でございます。

専修大学教授の「中野英夫（ナカノ ヒデオ）様」でございます。中野様はオンラインで御出席でございます。

青山学院大学教授の「西川雅史（ニシカワ マサシ）様」でございます。西川様はオンラインで御出席でございます。

昭和女子大学教授の「見山謙一郎（ミヤマ ケンイチロウ）様」でございます。見山様は本日御欠席でございます。

各団体代表でございますが、

川崎商工会議所 副会頭の「石山一可（イシヤマ カズヨシ）様」でございます。石山様は本日オンラインで御出席でございます。

川崎市全町内会連合会 理事の「岩澤達夫（イワサワ タツオ）様」でございます。岩澤様は本日御欠席でございます。

国際ソロプチミストアメリカ川崎の「島田典子（シマダ ノリコ）様」でございます。

川崎地域連合 事務局長の「館克則（タテ カツノリ）様」でございます。

川崎市生活協同組合運営協議会 幹事の「渡部さと子（ワタベ サトコ）様」でございます。渡部様は本日御欠席でございます。

公募委員でございますが、

「伊藤真冬（イトウ マフユ）様」でございます。

「山下美穂（ヤマシタ ミホ）様」でございます。

以上の15名の方でございます。なお、委員の任期につきましては、令和6年10月1

日から令和8年9月30日まででございます。委嘱状を机の上に配布させていただきましたので、どうぞよろしくお願いいたします。オンラインで御出席の委員につきましては、郵送でお送りさせていただきます。学識経験者の方におかれましては、前回の部会で配布している場合は、今回配布しておりません。また、新しく委員になられた方におかれましては、今回の委員会の議題にもなっています川崎市上下水道事業中期計画の冊子を配布させていただいておりますので、後ほど、御参照していただければ幸いです。

続きまして、上下水道局の職員ですが、座席の関係で、お手元の上下水道局側の出席者名簿の順番と多少前後しますが、御了承ください。

担当理事・下水道部長の松川です。

総務部長の山本です。

庶務課長の寺岡です。

財務担当部長の梁取です。

財務課長の松田です。

財務課担当課長の吉田です。

サービス推進部長の舘です。

サービス推進課長の佐久間です。

下水道施設担当部長の中村です。

下水道計画課長の小林です。

水道部長の筒井です。

水管理センター所長の岸です。

水道計画課長の山原です。

経営戦略・危機管理室担当課長の森川です。

以上が本日の局側の出席者となっております。

どうぞよろしくお願いいたします。

次に、委員長の選任に移ります。

要綱によりまして、委員長は学識経験者の中から委員の互選により定めることとなっておりますがいかがでしょうか。

特にご意見がないようでしたら、事務局案として、改選前に委員長をお引受けいただいております長岡先生に引き続き委員長をお願いできればと存じますが、皆さまいかがでしょうか。

長岡先生、よろしいでしょうか。

長岡委員長
事務局

お引き受けいたします。

ありがとうございます。長岡先生、よろしくお願いいたします。

それでは、委員長からひと言ごあいさつをいただければと存じます。

委員長よろしくお願いいたします。

長岡委員長

委員長を務めさせていただきます長岡です。よろしくお願いいたします。

この委員会は、上下水道の分野に対して幅広い見地から意見を申し上げるという委員

会です。学識者だけでなく、様々な立場の方々がいらっしゃいますので、委員長として幅広い意見を聴き取れるよう努力して審議を進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。簡単ですが挨拶とさせていただきます。

事務局 ありがとうございます。それでは、要綱によりまして、委員長が議長となりますので、ここからの会議の進行につきましては委員長、よろしくお願いいたします。

長岡委員長 それでは、同じく要綱によりまして、副委員長は委員長の推薦により定めることになっております。

改選前の副委員長である齋藤先生に、引き続き副委員長をお願いできればと思っておりますがいかがでしょうか。

齋藤委員 お引受けいたします。

長岡委員長 齋藤先生、よろしくお願いいたします。

つづきまして、本日の議題に入らせていただきます。

議題の「川崎市上下水道事業中期計画（2022～2025）の進捗管理について」、事務局から説明をお願いいたします。

経営戦略・危機管理室担当課長 （資料1～2を説明）

長岡委員長 ありがとうございます。それではただいまのご説明に対して、ご意見、コメント、ご質問等あれば発言をお願いいたします。なお、オンラインでご出席の方は、挙手ボタンまたはカメラをオンにいただき挙手をお願いいたします。

館委員 ご説明ありがとうございます。資料1のP24の「省エネルギー対策」について質問です。目標値に対して実績値が他の取組と比べて離れているという印象ですが、令和6年、7年の目標値を変えなくてよろしいのかということと、右下の今後の方向性の青文字で「施設更新に合わせた高効率機器・省エネルギー機器の導入」とありますが、こういったものを導入するのかということをお教えください。

また、P32の「人材育成の推進」の評価について、アンケート調査は誰に対してのアンケートなのでしょう。局内全職員と記載されていて、急に主観的だと感じましたが、目標を下回った理由を分析されていれば教えていただけますでしょうか。

経営戦略・危機管理室担当課長 P24の「省エネルギー対策」について、目標に届かなかった主な原因としては、現在契約している電力会社の電力排出係数が非常に高くなっており、契約することによって、温室効果ガスの削減割合が減ってしまいました。なぜそうなったかということ、ウクライナ問題の関係で電力会社との契約が困難になっていて、契約は一般競争入札をしています、その入札に、どの電力会社も参加しなかったため不調になり、最終的には東京電力との最終保障の契約となっています。排出係数が低い電力会社を選んだ方が、今後の温室効果ガスも減っていくと想定されますが、現状相手を選べない状況です。

今後については、電力会社にヒアリングをしていて、排出係数が低い業者と契約をできる見込みもあるため、その他の取組と合わせて温室効果ガスの削減量も増えていくと考えています。

庶務課長 P32の「人材育成の推進」については、アンケートにおいて、日常的に業務改善を実施する組織風土の醸成ですとか、働き方・仕事の進め方改革が進んでいる、職場内の円滑なコミュニケーションなど、複数の設問を設定してまして、その中で、「進んでいる」「どちらかと言えば進んでいる」などの項目を設定しています。今回目標値を下回った一番の

要因としては、全職員で1千人強いて、令和3年度の「無回答」28.5%に対して、令和5年度の「無回答」が39.3%でした。無回答を除いて比較すると、74.2%から73.4%になっていて数字は概ね変わりませんでしたので、アンケートをしっかりと回収するという課題はあったのですが、回答の割合としては、概ね同程度の結果と考えております。

なぜ主観的な回答の設定になったのかということ、前中期計画の指標では、研修の実施回数を指標にしていたのですが、研修をどれだけ実施したのかではなく、その実施した結果、どれだけ能力が増えたかということが大事だと考えましたので、他都市の事例を参考にするなど様々な検討を行い、今回この指標を設定しました。今後は指標の改善の余地があると思いますので、引き続き検討していきたいと思います。

長岡委員長
経営戦略・危機管理室担当課長
長岡委員長
水道計画課長

アンケートの回収率が低いことを問題視したほうがいいと思います。

P24の補足よろしいでしょうか。

簡潔にお願いします。

先ほど、P24の質問の中で、こういった高効率機器を導入するのかという質問がありましたので補足させていただきます。

取組にある電気設備の更新がありますが、こういった受変電の電気設備の変圧器やエアコン等にはトップランナー方式という制度がございます。こちらは、目標年度と目標基準値を設けて、年々電気の使用量が少ない高効率機器を導入するという制度でして、そういった制度の機器を順次更新の時に導入していくということで、高効率という表現にしています。

長岡委員長
井出委員

ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

P32の「人材育成の推進」について伺います。アンケート調査は水道事業の人材育成について特に掘り下げたものではなくて、全庁的なあらゆる職場に対してのアンケート調査だと感じています。もしそうでなければご説明いただきたいです。

水道事業の専門的な人材育成を今後のどのようにしていくのか、もう少し掘り下げていただくと状況が分かりやすいと感じました。専門職の人材育成は非常に困難であると認識していますが、それを今後どのように行っていくのかということ。

民間の活力を水道事業にどのように活かしていくのかの方向性に絡めて、人材育成の方針をチェックしていただけると、とても効果的だと感じました。

資料2について、人件費が高騰している中で、なぜ人件費が計画額よりも減ったのかということをお教えいただければと思います。

長岡委員長
庶務課長
井出委員

ありがとうございます。まずはアンケートからご説明をお願いします。

アンケート調査は上下水道局職員のみが対象となっています。

ありがとうございます。アンケートの詳しい内容については、機会がある時にどんなアンケートをしたのか教えていただければと思います。

長岡委員長
財務課担当課長

次に人件費についてお願いします。

人件費の単価が減ったということではなく、おそらく職員数に計画と決算で増減があったのではないかと思います。今は詳しいことは分からないので、後ほど調べてお答えします。

長岡委員長
館委員

他にはいかがでしょうか。

資料2のP14について、管路更新率が0%で推移していますが、赤字で完成年度にのみ

計上と記載されているのは、法律かなにかで決まっているのでしょうか。

水道計画課長 完成年度にのみ計上というのは、複数年にわたって工事の支払等がすべて終えて完成年度という形と、管路延長を計上する際に、完成をもってその分の工事延長を完成年度という形にしますので、更新率もその時に計上するようにしています。

基本的に、工業用水道は管路更新をほとんどしてきていませんが、短管路の末端の比較的細い管をたまたま令和3年から複数年で更新したため、令和5年度は1.8%を計上しています。実際は計画的にできていませんでしたが、以前、工業用水道の施設と管路更新についての答申でも計画的にとありましたので、今後は計画的な更新ができるようになります。

長岡委員長 他にはいかがでしょうか。

山下委員 2点ほど伺います。

前回の委員会の会議録を見させていただき、今回も工事の入札不調の話がありましたが、入札不調をなくすためにどのようなことを行っているかありましたら教えていただけますでしょうか。他都市だとアンケートを行っているなど聞いています。

もう1点、「人材育成の推進」について、内容が一般的な研修のアンケートになると思いますが、例えば能登半島地震の際に派遣されたというのは技術継承の研修になると思いますので、毎年ではないと思いますが、そういう項目を入れてもいいのではないかと感じました。浸透度アンケートだけだと「無回答」が増えてしまうと思います。提案として言わせていただきました。

長岡委員長 入札不調についてご説明をお願いします。

水道計画課長 入札不調については、遅れた指標（p21）の中で、自家発電設備のタンクの増強がありますが、入札に参加されなかった業者さんにどうして参加されなかったのかをヒアリングして、原因を把握して対応するようにしています。今回の自家発電燃料タンクの増強の対応としては、分割して発注する方法を考えています。

長岡委員長 通常の管路工事などでは不調はないのでしょうか。

水道計画課長 そうです。

総務部長 先ほどご意見いただいた災害派遣についてですが、今回の能登半島地震では水道分野と下水道分野の職員が概ね1週間程度で交代しながら現地に対応しました。災害派遣の経験値も人材育成に必要なだと感じていまして、この経験値は災害対応能力の向上に大きくプラスになるものだと思いますので、そういった経験も人材育成に活かしていけたらと思います。

また実際に災害対応に派遣された職員の報告会を行っていきまして、派遣された職員はもちろんですが、派遣されていない職員にも現地の状況や課題を共有していますので、川崎市が被災した時に活かせるような取組も重要だと思っています。

長岡委員長 ありがとうございます。

Webの委員の方はいかがでしょうか。

西川委員 資料2のP11またはP14の管路経年化率についてですが、工業用水は耐用年数の割合が80%を超えているとあるのですが、説明を見ると、実際の使用の可否を示すものではないと記載されています。この数字は資産が老朽化していることを示す指標だと思いますので、その上の有形固定資産減価償却率と同様の説明をしなければいけないと思います。

が、なぜこの項目は、言い方が悪いですが、言い訳がましい表現になっているのでしょうか。

水道計画課長 西川委員のおっしゃるとおり、言い訳がましい表現になっています。一般市民の方は古くなっているため危険ではないかという印象を持たれる方が多いと思います。報道でも管路の経年化が進んでいるが管路更新が追い付かないという報道がされていますので、このような表現をさせていただいていますが、管路経年化率 40 年を超える管はたくさんありますが、十分に健全度はありますので、現状使用していても問題ないと認識しています。

西川委員 法定耐用年数を超えていても、川崎市としては危険でないとするのなら、例えば耐用年数が 40 年、60 年のものは、川崎市としてどのくらいまで平気なものとお考えですか。

水道計画課長 水道、工業用水道事業に関しては、中大口径、口径が 400mm 以上の管路、大口径の管路については、健全度調査を昨年度実施しまして、大きな管路は 100 年以内に管路更新に着手するという目標を持っています。現在水道は管路更新率が高く、耐震化も進んでいますが、こういった管は小口径の耐震性がない管ですので、積極的に更新を行っていくとしていて、60 年サイクルで更新を行っています。管路の口径別、管種別に考えていますので、一概に全ての管路が何年以内という考えではございません。

西川委員 ありがとうございます。法定耐用年数と川崎市の考えを口径別、管種別で構わないので、資料に入れていれば分かりやすいのではないかと思います。

長岡委員長 川崎市だけではなく、他都市でも 40 年で交換する自治体はないと思うので、一般的には山原さんが言っていたとおりだと思います。

他にはいかがでしょうか。

磯貝委員 意見です。人材育成について、上場企業は取締役女性何人いるか開示することになっていて、管理職の何%を女性にしようという目標をもって動きがある中で、本委員会の委員側は女性の方がいますが、局側の職員に女性の方が 1 人もいらっしゃらないです。一般企業に遅れると思いますけど、役所にもその波が来るとしますので、それに備えて何かしらの措置を取った方が良いのではないかと感じました。

また、先ほど排出係数の話をしていましたが、企業会計で、排出の量を開示しなさいとなっていて、車であれば、1 台あたりどれくらいの CO₂ 排出量で作ったのかとなっています。東北地方で作った車と、九州地方で作った車の CO₂ 排出量は異なっています。それは原子力を使っているからというところだと思いますが、一概に減らすというのは難しいと話されています。コメントとして言わせていただきます。

長岡委員長 コメントということによろしいでしょうか。

事業管理者 上下水道事業は現場でも女性職員が少ないので大きな課題であると認識しています。市役所全体だと女性管理職 30% 以上が目標にありますが、上下水道局では約 70 名管理職がいる中で 2 名になりました。今後は計画的に、係長になったくらいから管理職目指して育成できるよう努めてまいります。

長岡委員長 他にはいかがでしょうか。

斎藤委員 資料 1 の P18 水道施設の耐震化について、特別な事情があつて工事の遅延が生じたのかもしれないが、今後の課題、どのような対応策など、今後に関わるものがあればご説明いただければと思います。

水道計画課長 千代ヶ丘配水塔は、住宅地の中にある非常に狭隘な敷地に配水塔が2塔あります。もともと設計で振動・騒音対策として、頂版と側壁をワイヤーソー工法としていました。ただし底版は施工性から通常のコンクリート圧砕工法としていましたが、騒音があると近隣の方々から陳情がありました。底板もワイヤーソー工法で行うことにしたため、施工期間が増え、費用も増えてしまいました。

対応策としては、工法の費用と騒音等の兼ね合いも踏まえて今後は設計をしていきたいと思います。

斎藤委員 工事を行う前に、ある程度どれくらいの騒音が出るということは分かっている、住民への説明もされていたと思いますが、工事で起こる騒音は規制値の範囲内であったのかという理解でよろしいでしょうか。

水道計画課長 はい、規制値内です。

長岡委員長 他にいかがでしょうか。

では私から、資料1について、目標は一度決めたら、目標値を変えることはないのでしょうか。PDCAサイクルを踏まえて変えてもいいのかと思うのですが、最初決めた目標値に対して〇×と機械的な印象を受けました。

また、資料2について、全体的な経営の評価はどうなのでしょう。厳しいのか、まだ経営していけるのかなど、言いにくい部分もあるとは思いますが、総括的な評価があれば教えてください。

経営戦略・危機管理室担当課長 目標は次期中期計画の策定の際に変更していくと考えていますが、特別な事情があればその都度変えてもいいと思っています。

長岡委員長 もう少し柔軟に対応してもいいと思いますのでご検討ください。

経営戦略・危機管理室担当課長 経営については、5月に報告をしたとおり、今後の財政収支見通しについては水道事業、下水道事業それぞれかなり厳しい状況になっています。冒頭にお話ししたとおり、動力費がそれほど値上がりしなかったこともあり、シミュレーションよりは多少良い状態にあります。今後水道事業は特に厳しい状況が続くと考えております。

長岡委員長 今の説明だと下水はそうでもないということでしょうか。

経営戦略・危機管理室担当課長 下水は動力費の割合が水道に比べ高いので、その動力費の見積もり分まで上がらなかったということです。

長岡委員長 分かりました。他にはいかがでしょうか。

斎藤委員 資料2のP16 下水の施設利用率について、この数値は仕方ないと思いますが、今後どのように上げていくのが可能なのかご説明いただけますでしょうか。

下水道計画課長 要因の一つが、下水道施設が持っている能力に対して、徐々に水道の給水水量が下がってきていて、下水処理場に流れてくる水量も減ってきています。今後数字が水道に近づくように施設の設計、水量等を見直していくことが必要だと考えています。一方で、下水には合流式もあって雨水や地下水も入ってくるので、全く水道と同じではない部分もありますが、そういった実態を踏まえながら、処理に支障のない水量を今後考えていきたいと思っています。

斎藤委員 指標を作って比較をしていく中で、対応可能なものと、時間のかかるものがあって、これが指標に出てくることで先ほどの言い訳文のような文言も出てきてしまいます。そのまま見るとすぐ改善してほしいと見られてしまいますが、なかなか改善できないものも

あると思いますので、示し方を考えないと市民に間違った情報提供をすることになってしまいます。市は懸命に行っているのに、どうにもならない部分もあると思うので、間違った指標の作り方、示し方をしないようにしていただきたいと思います。

長岡委員長 コメントでよろしいでしょうか。

施設利用率は高い方が良くありますが、100%はあり得ないという数値があると思います。下の最大稼働率 84.9%はまずいという印象がありますので、適正な数字を示さないと誤解を招くと思いますので、そのあたりをコメントした方が良くと思います。

長岡委員長 それ他はいかがでしょうか。

なければ続いて資料3についてご説明をお願いします。

経営戦略・危機管理室担当課長 (資料3について説明)

長岡委員長 ありがとうございます。ただいまのご説明にご質問等ありますでしょうか。

何人かは部会に入っているの、入っていない方からぜひいかがでしょうか。

館委員 ご説明ありがとうございます。3回の部会が開催されたとのことでしたが、どのような内容なのか差し障りのない程度で報告いただけたらと思います。

経営戦略・危機管理室担当課長 部会は非公開となっていますので、内容は次回の経営審議委員会の中間報告をお待ちいただければと思いますが、今回は新しい委員もおられるので、どのようなことを行っているかの報告をさせていただきました。

館委員 分かりました。

長岡委員長 繰り返しになりますが、P3に持続的な事業運営、受益者負担、少量使用者の負担の3つが重要なキーワードとなると思います。

他にいかがでしょうか。

山下委員 広報紙を読ませていただきましたが、この内容は部会で議論された内容を、掲載されたものなののでしょうか。

経営戦略・危機管理室担当課長 部会で話し合う前に、課題として本委員会に報告させていただいた内容がメインになっています。その課題については、部会で検討しています。

山下委員 分かりました。知識なしで、単純にこの広報紙を読んだ時に、料金改定を検討する予定としか記載されていなくて、パッと見て多分値上げするのかなと感じてしまいました。

経営戦略・危機管理室担当課長 そう感じられる方も多くいらっしゃると思いますが、主な趣旨として、まずは制度の見直しをしなければいけないということをアナウンスさせていただいています。来年については、今後、事業費、財源をどうしていくか、本委員会で検討していただいて、それを踏まえて我々で考えていきますので、現段階では値上げするともしないとも決めておりません。よろしくお願いします。

長岡委員長 他にはいかがでしょうか。こうして欲しいということでも構いません。伊藤委員いかがでしょうか。どんなことでも構いません。

伊藤委員 料金の値上げ値下げはまだ決まっていないと思うので、今後どういう理由で料金改定が行われていくのかというところを注視しながら参加していきたいと思います。

長岡委員長 次はその細かい部分は示されるんですね。

経営戦略・危機管理室担当課長 委員会では示す予定です。

長岡委員長 島田委員はいかがでしょう。

島田委員 料金は値上げするのですか。

経営戦略・危機管理室担当課長 できるだけ安くしたいと考えています。

中 野 委 員 最近千葉県が 20%の水道料金値上げというニュースがありましたが、川崎市も厳しい状況なののでしょうか。なかなか比較はできないと思いますが、千葉県と川崎市の違いを教えてくださいいただければと思います。

経営戦略・危機管理室担当課長 千葉県の財政状況を見ていないので、判断ができませんが、本市の中期計画期間は値上げしなくてもいいという状況です。よろしいでしょうか。

長 岡 委 員 長 今回は値上げではなく、制度の検討ですよね。
他にはいかがでしょうか。

鎌 田 委 員 資料 2 の P 15 について、管路更新率の突出している部分がありますが、大口径は平準化できたら検討していただければと思います。

長 岡 委 員 長 他にはいかがでしょうか。
なければ、予定した議題及びその他の事項は以上でございしますが、委員の皆さまから何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。
それでは、以上で本日の会議を終了したいと思います。
では、事務局にお返しいたします。

事 務 局 長岡委員長、ありがとうございました。
また、委員の皆さまにおかれましては、様々な貴重な御意見をいただきましてありがとうございました。本日のご意見を踏まえて施策・取組を推進していきたいと思っています。
次回の経営審議委員会の開催日につきましては、2月の開催を予定しております。後日、皆様と日程調整をさせていただきながら決定したいと考えておりますので、その際は御協力をお願いいたします。
また、部会員の方におかれましては、12月26日（木）に第4回水道事業及び下水道事業の料金制度等あり方検討部会を開催いたしますので、お忙しいところ恐れ入りますが、そちらについてもよろしくお願いいたします。
それでは、本日はありがとうございました。